

# 市政ニュース

## 地域ブランドフォーラム

### 地域の魅力をつなぎ合わせる

3月1日、豊岡市民プラザで「地域ブランドフォーラム」を開催しました。市内の商工業・観光業・行政の関係者など約130人が集まり、ものづくり・まちづくりを中心とした地域ブランドの構築について共に考えました。

基調講演などの後に行われた「豊岡市の魅力向上に向けて」と題したパネルディスカッションには、市を代表する地域資源「豊岡靱」、「出石そば」、「城崎温泉」の各代表者と中貝市長がパネリストとして参加し、地域ブランド確立に向けた取組みの状況や課題、今後の戦略や抱負などについて話し合いました。

コーディネーターを務めたブランド総合研究所代表取締役社長の田中章雄さんは「地域ブランドは自分たちで作っていくものです。豊岡にはさまざまな魅力的資源がいっぱ



▲地域ブランドの構築に向け多くのヒントが出されたパネルディスカッション

いあるので、それを結びつけて、うまく発信していくことが必要です」などとアドバイスしました。中貝市長も「合併して果物カゴにさまざまな果物が入り、まちの魅力が広がり、各地域の個性も際立ってきました。その個性をつなぎ合わせ、さらに魅力的なまちを皆さんと一緒につくっていきたいと思います」と話していました。

## 地域新エネルギービジョン・バイオマス構想書を策定委員会が提出

### バイオマスエネルギーなどを導入

2月20日、「豊岡市地域新エネルギービジョン（構想）」と「豊岡市バイオマスタウン構想書」が策定委員会（委員長 保田 茂・兵庫農漁村社会研究所代表）から中貝市長に提出されました。

まず、「地域新エネルギービジョン」では、「コウノトリ舞う 暮らしと環境を創る 豊岡新エネルギー戦略」をテーマにして、地域に分散する資源を循環活用して豊岡らし

い新エネルギーの普及・導入を目指すことを求めています。また、新エネルギー導入に向けた方向性としてバイオマスエネルギーの導入、光・風・水を生かしたエネルギーの普及、環境を守る意識の醸成の3点を挙げています。

一方、「豊岡市バイオマスタウン構想書」では、間伐材などを裁断し燃料や家畜敷料などとして活用すること、耕作放棄地などに菜の花を栽培

し菜種油を採取すること、家畜排泄物の堆肥化に取り組みことなど具体的な事例を示し、利活用の目標数値も設定されています。今後、市では、この報告に基づき、新年度から事業を展開し、自然と共生するまちづくりを推進していくことになっています。

※バイオマス：再生可能な生物由来の有機性資源

## 城崎温泉の町並みが「美しい日本の歴史的風土100選」に選定 大谿川沿いの景観と温泉街の情緒が評価される

古都保存法施行40周年を記念し、(財)古都保存財団などが企画した「美しい日本の歴史的風土100選」に城崎温泉の町並みが選定されました。

都市を選びました。

全国から698件の推薦があり、歴史的風土に関する各界の専門家からなる選定委員会が「歴史的意義」「一体性」「保全活動」などの選定基準に基づき、特に優れた100

城崎温泉は、大正期の震災後の復興による大谿川沿いの美しい景観と多くの文豪に愛された温泉街の情緒が残されているという点で高い評価を受けました。

なお、県内ではそのほかに有馬温泉・旧居留地・北野などの神戸市の町並み、城下町篠山の町並みの2都市が選ばれています。



▶大谿川沿いの柳並木と旅館が独特の風情を醸し出している城崎温泉

## 株式会社さとうと災害協定を締結

### 民間企業4件目の締結を交わす

災害発生時の防災活動を円滑に進めるため、2月20日、市役所本庁で株式会社さとうと災害協定を締結しました。民間企業との同種の締結は4件目となります。

この協定により、災害時、市の要請に応じて、同社から避難者に対する食品や生活必需品などの物資の供給を受けることができます。

## 「コウノトリ舞い降りる田んぼ」に市内5地区認定

### 「コウノトリと共生する農業の普及

2月20日、但馬県民局は、農業者が意欲的に経営や技術の改善に取り組み、コウノトリと共生する農業を実践・拡大を図ろうと、市内5地区の田んぼを「コウノトリ舞い降りる田んぼ」に認定しました。認定を受けたのは、赤石、祥雲寺、福田、河谷、中谷地区です。認定基準は、「コウノトリ育む農法」などコウノトリと共生する農業を2ヘクタール以上実践しており、コウノトリの餌場としている水



▲認定を受けた5地区の代表者には県民局から認定書が交付された

田があるか、その可能性がある水田があることなどです。認定期間は、平成21年3月末までです。

## 野生コウノトリの死亡を確認

### 勇気と希望を与えた神様の贈り物「ハチゴロウ」逝く

2月27日、市内金剛寺地区の山林で、野生コウノトリ「ハチゴロウ」（雄・推定7〜8歳）の死骸が発見されました。市民からの連絡により県立コウノトリの郷公園の獣医が駆けつけ調査したところ、くちばしの模様から、同月6日から行方不明となっていた「ハチゴロウ」と確認されました。

平成14年8月5日に突然、豊岡に飛来したことにちなみ命名された「ハチゴロウ」は、これまで多くの人に愛され続

けた。私たちに野生化に向け勇気をくれました。心から感謝を捧げます」とコメントを出しました。

中貝市長は、この衝撃的なニュースに「とても残念です。ハチゴロウは神様の贈り物でした。私たちに野生化に向け勇気をくれました。心から感謝を捧げます」とコメントを出しました。



▲ハチゴロウの突然の死は、多くの人に衝撃と深い悲しみを与えた

り（個体番号J0232）1羽の死亡も確認されています。

## 平成16年台風23号災害復旧事業

### 事務費相当分など約126万円を国に返還

市では、未竣工であった23件の災害復旧事業で受給していた国の補助金約4900万円に関し、事務費相当分と加算金を含めて126万3千円を3月30日に返還する予定となりました。

これは、平成16年台風23号により被害を受けた河川・道路の災害復旧事業において、年度経過後も工事を施工して

いたことによるものです。未竣工の工事については、当該年度末における未竣工部分の工事費および事務費に相当する部分の交付決定が取り消され、その返還が命ぜられることが基本です。しかし、今回は、長期間の異常豪雪などのやむを得ない事情が考慮され、予算の取扱いが不適切であった未竣工部分の事務費に相当する部分のみが取り消されることになりました。本市では、この度の事態を厳粛に受け止め、再発防止に向けた改善策として、すでに全庁的に未竣工工事の防止に向けた研修会を開催するとともに、関係職員を指導し国庫補助事業をはじめとする公共工事の適正執行に万全を期することにしています。